



〇文・理Ⅲ

昨年秋に段ボールで立方体（一辺約 50 cm）を作り、穴をあけたりして子どもが中に入ることができる遊具にしました。主に「きらり」で活用してもらっています。小学校勤務の時にも作りましたが、子どもたちは中に入ることを結構喜びます。“自分一人の居場所”“かくれんぼ気分”“洞窟探検”というような心境でしょうか？家にも数個持ち帰り、孫の反応を見てみました。中に入ったときは「誰も自分の存在に気づいていないだろう。」とっているような雰囲気が箱の中からにじみ出てきます。そして、扉を開けて「いないいないばあ！」という感じで出てきます。子どもの心の中と自分が存在している環境をどうとらえているのかということが少し見えたりします。

小学校の算数で立体を学習する場面があります。私は“映像人間”なので、算数は図形分野の方が計算分野よりも得意です。立体を頭の中に想像することは比較的簡単にできます。しかしそういう想像が苦手な子もいるだろうと思い、一辺 1 m の立方体を段ボールで作ってみました。出来上がってみると想像以上に“でかい”ですね。風呂に使ったら 10 人は入れそうです。下手をするとおぼれるかもしれません。小学生たちもその大きさにびっくりしていました。もう一つびっくりしたのは構想不足で部屋から出せなかったことです。冷静に計算してみると一辺 50 cm の立方体の 2 倍ではなく 8 倍なんですね。大きいのは当たり前です。

このたよりの表題を「文・理」と表現していますが、記述した話題などの中には文と理に分ける境目はないことに気づきます。子どもたちは意識せずに両方を使っていますね。

自校自賛

新しい年を彩る玄関です。



南天  
蠟梅  
水仙  
折り鶴  
etc.



正月の山口新聞で光駅の壁画が紹介されました。